

第7回チャイルドライン全国フォーラムinみえ

子ども支援フォーラム

～子どもの声が地域・社会をかえる～

11月26日(土) 27日(日) 三重県総合文化センター

全国のチャイルドラインに関わる人々が一堂に集うフォーラムです。三重県では子ども支援団体や行政、企業が集まり、三重県のすべての自治体に「子ども権利条例」を制定することをめざしています。

子どもの権利宣言フォーラム

2011年3月12日(土)
フレンテみえ・三重県総合文化センター

東北地方太平洋沖地震の翌日という不安な状況の中で「権利」について、それぞれの会場で考え合い、語り合いました。

「権利トーク」では、達成感が自己肯定感につながることで、そしてありのままの自分を受け入れるには大人がゆったりと子どもからの言葉を待つこと、また家族や学校以外の場所や空間に多様な価値観があることの大切さを感じました。

「子ども会議」のファシリテーターからは、子どもたちから「長所」「短所」って何?という質問があり、良い所＝長所 悪い所＝短所とも違うし、どう説明しようか困った、ということなどが話されました。

「子ども自由区」は、何をするか、あるいは何もしないかも含めて子ども自身が決めます。大人から「～したら」とか「～であそぼうか」と仕掛けられるのではなく、「自由」と言われても、何をしたらいいかわからない、自分の気持ちのままに動くことができない子もいました。

「子ども委員会」からは『子どもだからとったりせず、ひとりの人間として向き合ってほしい』という宣言がありました。この力強い宣言は、私たち大人に向けられただけでなく、子どもたち自身にも向けられたものでもあるということに感動しました。子どもと大人がそれぞれ知恵を出し合い支えあって「子どもの権利条例」づくりを進めていきたいと思えます。

実行委員会

第7回チャイルドライン全国フォーラムinみえ
子ども支援フォーラム
～子どもの声が地域・社会をかえる～

三重県での実行委員会が始まりました。松阪子どもNPOセンターも「子育て支援のネットワークづくり」、「子どもの権利条例づくり」を課題として取り組みたいと、松阪市のこども未来課・教育委員会人権まなび課といっしょに実行委員会に参加しています。

チャイルドラインの全国フォーラムでありながら、それだけでは終わらないのがチャイルドライン MIE ネットワークの取り組みです。自分たちの地域の課題に取り組むことで、それぞれが子ども支援についてつかみあう場になると思えます。今年の11月26日・27日にむけてそれぞれの地域が動き出します。

(特) 松阪子どもNPOセンターは 子育て・子育てをささえます

興味を持ったら、参加したいと思ったら、たのしそうだと思ったら、もっと知りたいと思ったら、手伝いたいと思ったら すべてのお問い合わせは、

《特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター》

住所 〒515-0043 松阪市下村町1115 Tel・Fax 0598-20-1511
ホームページ <http://www.mknpn.jp/> eメール info@mknpn.jp 月～金 10:00～17:00

特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター

spring 第110号

こども21

子どもたちがのびやかに豊かな「子ども時代」を過ごすために

発行 2011年4月1日

〒515-0043 松阪市下村町1115

TEL・FAX 0598-20-1511

ホームページ <http://www.mknpn.jp/>

Eメール info@mknpn.jp

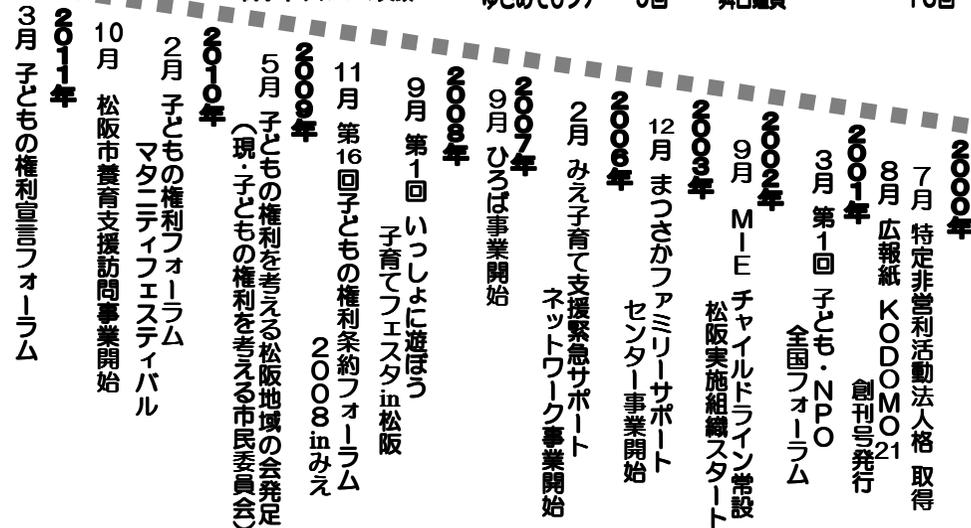
おかげさまで110号



高学年キャンプの実験

この10年間のあゆみ

高学年キャンプ	7回	わくわくランド	7回
トーク合宿	8回	プラスドゥママン	5回
高学年スキー	6回	柱文我あやこ落語会	7回
低学年合宿	9回	絵画ワーク キミ子方式	9回
ゆきあそびツアー	9回	舞台鑑賞	18回



このたびの東北地方太平洋沖地震により、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。亡くなられた方々のご冥福をお祈り致します。

今、被災地の子どもたちはどのように過ごしているのでしょうか。肉親や友だち、家を失った子どももいるでしょう。傷ついた子どもたちのことを思うと本当に心が痛みます。まず心のケアが急務です。周囲の大人の丁寧な関わりや思い切り遊べる場所を確保することで、子どもたちの気持ちも少しずつやわらいでいくと思えます。子ども自身が心を再生できるまで、根気よくサポートする必要があります。そうした子どもたちの笑顔がまた大人に力を与えます。

また、被災していなくても悲惨な現状をテレビで繰り返し見て、原因不明の体調不良を起こす子どもが出ています。PTSD(心的外傷後ストレス障害)まではいかなくても、日本中の子どもたちが、怖い思いをしたり不安になったりしています。我々大人も先々心配になりますが、今こそみんなで支え合い、地域の中で子どもが安心して生活できる環境を作っていくなくてはと切に思っています。

理事長 塩谷 明美

ひろげる・つなげる・子ども支援のネットワーク

人形劇 あなたが生まれるまで

松阪市街地区実行委員として人形劇の公演に関わりました。申し込み開始直後に定員オーバーとなる盛況で、松阪でこんな上質な演劇が子どもたちや家族のみなさんに待ち望まれていたことを感じました。公演までに持った実行委員会も含めて、自分の生き方をふりかえるきっかけになりました。

(40代・女性)



ひろば事業 読み聞かせ&ほっとカフェ

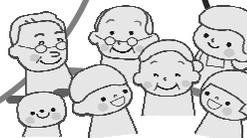
ふだん読まない絵本を読んでもらったり、親子のふれあい遊びを教してもらったりして子どもはもちろん、私も毎回楽しませてもらっています。手作りのお菓子も小さい子どものことまで考えて作ってもらえてありがたいです。ママ同士、子ども同士の交流ができてとても楽しいです。

(20代・女性)

子ども委員会

僕たち子どもと対等に向き合ってくれる感じがして心地よかった。僕たちの精神的な生活環境は劣悪なのが基本だと皆と話す中で思った。いつもお菓子美味しかった。

(10代・男性)



映画 あしかび 葦牙

「地域の見守りや支えあいの大切さを改めて感じました。」

「少しは知っていると思っていましたが、このような実態を見るのは初めてでした。」
「どんなお母さんでも加害者になってしまう場面がある。」
「子どもの世話をするだけでは信頼関係は生まれません。ともに生きてこそ通じるものがある。」

～アンケートより抜粋～

チャイルドライン



チャイルドラインに参加するという事は、自分自身のコミュニケーションを見直す機会を与えられました！いかにふだん人を直そう、正そうとしてしか聞いていないことにビックリして毎回考えて成長させてもらっています！

(40代・女性)

ファミリーサポート事業

●依頼会員さんから

「援助をお願いできるようになり、大変楽になりました。母以外の人と触れ合うきっかけにもなり、子育てのちょっとしたことなども相談に乗ってもらえます。近所にこういう方がみえると安心です。」(30代女性・1歳男児)

●援助会員さんから

「わたしが援助に入らせていただいたのは一歳半の女の子。ワクワクドキドキする楽しい時間でした。二人で楽しく遊んだつもりでも、お迎えに来たお母さんに向けた顔はやっぱり一番の笑顔でした。」

(40代・女性)



6年間の登録会員数の推移

	依頼会員	援助会員	両方会員
H16年度	102	112	39
H22年度	274	213	77

本年度の事業参加者からの声

(特) 松阪子どもNPOセンターが、地域の子育ち・子育てを応援するNPOとしてさまざまな取り組みを続けて、10年がたちました。

事業に参加した人、スタッフとして関わった人、ボランティアを経験した人は何を思い、何を感じたのでしょうか。それぞれの体験から自分自身をふりかえり、仲間とともに取り組むことで気づきがあったのではないのでしょうか。

このような子ども支援をしているのはみんな「地域の人たち」です。子どもがのびのびと育ち、それを見守る大人たちも生き生きとする地域づくりに、ぜひあなたも参加してください。わたしたちはその絆を広げながら松阪の子育ち・子育てをこれからも支えていきます。

企画運営：子どもの権利を考える市民委員会

2011年 3月4日 松阪市橋西地区市民センター 41名
3月9日 飯南産業文化センター 38名

「子どもの権利条例づくりをめざして」
～日本の子どもたちは、幸福ではない!～



講師：竹村 浩さん

NPO法人チャイルドラインMIEネットワーク専務理事

特定非営利活動法人三重県子どもNPOサポートセンター事務局長

三重県で「チャイルドライン」の活動など28年間子ども支援に関わってこられた竹村さんは子どもが自らどう育つのか、自分はどうしたいのかを子ども自身が決めて行動することの大切さを話されました。

子どもが幸せに育つためには、自治体ごとに「子どもの権利条例」がなくてはならないという熱い講演に参加者は耳を傾けました。

子どもの問題を個々の家庭や親の問題にせず、社会全体の問題と捉えることが大切で、それには基盤となる条例が必要です。条例を作るには子どもに関わるさまざまな人とともに主体である子どもの参画が欠かせません。また、子ども、若者たちが孤立せず、気持ちを出しあい、松阪を自分の町として大切にできる地域づくりが大切なのです。

三重県に「子ども条例」が制定され、松阪市でも子どもの権利を考える市民委員会が条例制定に向けて取り組みをすすめています。

「子どもの権利」の根本を見つめなおす機会となったこの講演会には、松阪市議会議員12名をはじめ、教職員やPTA、子育てサークルの方など二会場あわせて79名の参加がありました。

講演会の後、松阪市議会では2人の市議会議員より「子どもの権利条例」についての質問があり、市長をはじめ行政が前向きに取り組もうとする姿勢が見られました。

この講演会が松阪市の「子どもの権利条例」づくりの本格的なスタートになった気がします。